

# 恵庭市における農福連携の推進体制 ～恵庭市農福連携ネットワークの取組～

## ◎取組の経緯（きっかけ）

平成27年、障がい者等が農業分野で活躍することで自信や生きがいに繋げ、社会で活躍することを期待して、市が試行的に農業実習を行ったのが始まり。翌年の平成28年3月、農業分野における障がい者等の就労促進の取り組みを推進することを目的に、恵庭市農福連携による障がい者就労促進ネットワーク（恵庭市農福連携ネットワーク）を設立した。

現在は、農業者や福祉事業所、関係団体など、計17の法人・団体等が会員となり活動している。



（事務局：保健福祉部障がい福祉課）

恵庭市農福連携による障がい者就労促進ネットワーク  
（恵庭市農福連携ネットワーク）について

<https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/material/files/group/26/gonenkatsudou.pdf>

## ◎活動内容

### ◆ マッチング支援

福祉事業所との調整は障がい福祉課、農業者との調整は農政課で行う。

### ◆ ネットワーク会議の開催

会員同士による情報共有、情報交換を目的に、年1回実施。

### ◆ 現地見学の実施

視察の参加及び受入により、行政機関や各関係機関と情報交換を行う。

### ◆ 収穫体験会の開催

農福連携の理解促進と普及を目的に、道央地域農福連携推進連絡協議会（事務局：（公財）道央農業振興公社）と共同で開催。

### ◆ 成功事例集の作成

作業内容の事例を写真や動画で「見える化」し、わかりやすくまとめた事例集を作成。

### ◆ シンポジウム等の開催

農福連携の推進や理解促進を目的に開催し、事例を幅広く周知している。

### ◆ その他

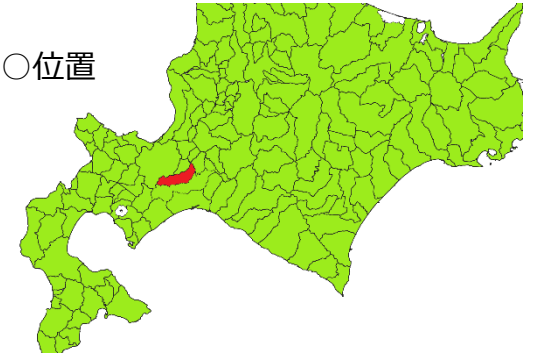
作業拡充に向けた調査・研究等



恵庭市農福連携成功事例集

## 地域の概略

### ○位置



○農業データ  
経営形態  
野菜、水稻  
小麦等

○福祉データ  
A型福祉事業所  
1か所  
B型福祉事業所  
16か所  
※令和4年12月31日現在



福祉事業所の利用者とともにピーマンの収穫作業を行う様子

## ◎成果と課題 □：成果 ■：課題

□ 農福連携により地域に障がい者等の活躍の場が広がり、取組が広く知られてきている。平成27年度の試行では、農福連携への取組は3事業所延べ96人の利用者から始まったが、平成30年度には3,407人、令和元年度には4,546人と、参加事業所の増加や会員の工夫による作業拡大の結果、取組人数が大幅に増えている。

□ 農福連携で行う農作業が増え、令和2年度では29種類となった。また、取り組む農作業が増えたことで、利用者の農作業に関わる時間が増え、結果として作業工賃が高くなる事業所が増えている。

■ ネットワークの広域化の検討（近隣市町の事業所や農業者などに広げる検討）